

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究における各自の研究活動」

～専門的課題研究中間発表会に向けたスライド作成と発表準備～

2. 本時の主題の概要および設定理由

本時は、今年度の「SS I (総合的な探究の時間)」の集大成である「専門的課題研究中間発表会」(2月末開催)に向け、発表スライドおよび発表原稿の作成を本格化・具体化させる重要な局面に位置している。

生徒はこれまでの授業を通じて、自らの研究計画(テーマ設定、リサーチクエスションの設定、仮説の構築、検証方法の選定など)を『研究計画書兼報告書』にまとめてきた。本時では、これらの成果を単に羅列するのではなく、他者に伝えるための「分かりやすく、明確で、論理的な」プレゼンテーションへと再構成する。

活動においては、本校が提示する『課題研究発表ルーブリック』から「課題の背景と意義の理解」「問いと仮説の適切性」「発表の明瞭性」「視覚的表現のデザイン性」の4つの観点を示し、到達すべき目標(最高評価レベル4)を意識させる。また、情報端末を活用した『スライドチェックリスト』での自己点検や、思考のパートナーとして支援ツール(支援Gem)の主体的に活用を促す。

教員は、個別面談や机間巡視による適宜の指導・助言を通じて、生徒自らが主体的に研究計画を点検し、より質の高いスライドを協働的に創り出せるよう支援することを目的として本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **中間発表会の見通しとスライド作成:** 中間発表会の開催要領、発表タイムテーブル、および発表ルーブリックの評価観点を理解し、チーム内での協働や適切な役割分担を通じて、発表スライドおよび原稿の作成を主体的に進めることができる。
- 2) **自己点検と主体的なブラッシュアップ:** 『スライドチェックリスト』や支援Gem(生成AI)を「思考のパートナー」として適切に活用し、自らが研究の主体であるという認識のもと、スライドの論理構成や分かりやすさを自律的に点検・修正することができる。
- 3) **探究プロセスの内省と記録:** 『探究ノート』への活動記録の記入を通じて、本時の学習目標と活動実績、および次回に向けた課題を明確に把握し、授業時間外を含めた自律的な学習計画を立てることができる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第25回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』

『専門的課題研究中間発表スライド』(共有ドライブ内のGoogleスライド原本)

- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)

『SS I 分野&担当教員一覧』

- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』、『課題研究発表ルーブリック』、『スライドチェックリスト』
- 学習支援AI: 『発表スライド作成支援Gem』（Gemini上で動作するスライド評価用カスタムAI）

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認 ● 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 ● 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第25回授業スライド(PDF版)』を表示する。	● ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 ● 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
2分	(2) 中間発表会概要と評価ルーブリックの説明(復習) ● 2月末に実施される「専門的課題研究中間発表会」の要項(発表時間5分、質疑応答なし等)やタイムテーブルについて説明を聞く。 ● 発表における評価項目(課題の背景と意義、問いと仮説の適切性、発表の明瞭性、デザイン性)を確認し、今回の発表の重点目標が「研究の途中経過の自己点検」と「発表スキルの向上」であることを理解する。	● スライド(p.2-11)を提示し、中間発表会が今年度の集大成となることを強調してモチベーションを高める。 ● 発表は5分、入替2分という過密なスケジュールであるため、当日スムーズな準備と発表ができるよう、時間管理意識を醸成する。 ● 評価ルーブリックの最高評価(レベル4)にふさわしい発表を目指せるよう、評価ポイントを個別に確認するよう促す。
2分	(3) スライドの基本構成と支援Gem活用法の説明(復習) ● 推奨されるスライド構成(タイトル、背景、RQ、仮説・検証方法など)を理解する。 ● 『スライドチェックリスト』および「支援Gem」を用いた客観的評価の実施方法を学ぶ。 ● AIを「正解を出す道具」ではなく「思考のパートナー」として捉え、最後は自分たちの主体的な意志で判断・修正する心構えを理解する。	● スライド(p.12-14)を用いて、チェックリストの確認プロセスを具体的に説明する。 ● AIの活用に際して、研究の背景や込めた思いといった見えない文脈はAIには理解できないため、生徒自身が探究の主体であることを強く意識させる。
43分	(4) チーム(個別)課題探究ワークの実践 ● 『探究ノート』を開き、「①本日の予定・目標」を記述する。 ● 各チームの進捗に応じて、発表用スライド(Googleスライド)の作成および内容の推敲を進める。 ● 『スライドチェックリスト』や『発表スライド作成支援Gem』を能動的に活用し、スライドの論理構成や体裁を客観的に自己判定・修正する。 ● 巡視する指導教員に対し、自分たちの研究計画やスライド作成の進捗を説明し、専門的な個別指導やアドバイスを求める。	● 担当教員は各チームを巡視し、進捗状況をリアルタイムで把握・支援する。 ● チームごとに個別面談等を行い、研究計画の概要を聞きながら、専門的・論理的な視点から個別に具体的な指導を行う。 ● スライド作成が本格化しているチームには、『スライドチェックリスト』の項目を丁寧に満たしているかを点検するよう促す。 ● AI(支援Gem)の指摘事項に対して判断に迷っている生徒に対し、「AIがこのような指摘をした意図は何か」「自分たちの本来のこだわりや伝えたいことは何か」といった問いかけを行い、主体的な意思決定を促す。
1分	(5) 本時の振り返りと今後の見通し ● 本時の活動内容を振り返り、個人端末から	● 『探究ノート』の記入が全員完了しているか確認する。 ● 中間発表会までにスライド作成に使える授業内時間はあ

	『探究ノート』の活動記録欄に記入する。 ● 次回授業が中間発表会前の最後の作成時間であることを認識し、授業時間外の進め方を含めたチームの役割分担を確認する。	と1回のみであることを周知し、終わらない部分はチームで分担して時間外で進めるよう指導する。
--	---	--